

俳聖殿

1942年に芭蕉（1644～1694）の生誕300周年を記念して建てられた俳聖殿は、「俳句の聖人」としての心に残る記念碑である。芭蕉を最高に尊敬する崇拜者の一人であった三重県の政治家川崎克（1880-1949）の音頭によって伊賀市に建てられた。俳聖殿は、芭蕉の姿に似せている。上部の湾曲した屋根は彼の旅笠をイメージし、下部の八角形の屋根は芭蕉の合羽と腰蓑をイメージしている。建物を支える柱は、芭蕉がいつも携帯していた杖を表している。ホール内には陶器製の芭蕉像が設置され、現代の俳人に創造的刺激を与えているのである。

毎年芭蕉の年忌日の8月12日に、芭蕉が残してくれたものを称える式典が俳聖殿で開催され、彫像の置かれた部屋への扉が開かれる。全国俳句大会が催され、参加者は作品を提出し、芭蕉の思い出に祈りを捧げる。近年、俳句大会は国際的になり、外国の俳人にも英語での参加が認められている。